

日本農業新聞

サラダ商材に関心

果青の市の見本市で 注目品種を提案



種苗会社が持ち寄った注目品種について話を聞く卸売会社や産地関係者（18日、神戸市で）

種苗会社と卸売会社63社で構成する「青果育種研究会」は18日、神戸市中央卸売市場内で「品種見本市」を開いた。種苗会社が注目品種を持ち寄り、卸売会社や産地JA

などに提案する見本市で、関係者約200人が来場、サラダ用野菜などに高い関心が集まった。サカタのタネ（横浜市）のブースでは、ミニハクサイ「タイニーシュ

シュ」を紹介。「平地でも夏場に作ることで、貴重なサラダ商材になる」と売り込んだ。ミニチンゲンサイ「シャオ

パオ」についても「中華料理店などで丸ごと使ってもらえる」とアピールした。

トキタ種苗（さいたま市）は、昨年からシリーズ化しているイタリア野菜を展示試食した。